

図画工作科学習指導案

指導者 横浜市立新吉田小学校 平間 美咲

1. 日時・場所 令和2年1月17日(金) 第1・2校時 場所 図工室、教室

2. 学年・組 第5学年2組40名

3. 「学習の方向性」から題材へ

「学習の方向性」

感じたことや想像したこと、見たこと、伝えたいことから
表したいことを見付け、主題を効果的に表す。

子どもたちの姿

- 表すことが好きな児童がほとんどだが何かを表現するとなると、手が止まったり、投げ出してしまったりする児童もいる。(図工に限らず)
- 今まで、「願いのたねから」をはじめ様々な立体に表す活動をしてきた。5年生になってからは、絵に表す活動や鑑賞活動で、「美しさ」に触れてきた。しかし、美しさを意識して表す児童はほとんどいないのが現状である。

教師の願い

- 一人ひとりがどんな6年生になりたいかを考えてほしい。
- 様々な工業部品を使いながら自分なりの見方をし、思いを表してほしい。
- 地域の工場の部品を使うことで、地域とのつながりを再認識してほしい。
- 効果的に表すために、組み合わせの美しさ、材料の形や大きさ、金属ならではの反射具合などに着目し、工夫して表してほしい。

題材名

「新吉田のかなめとなれ！！」
～ 工業部品を生かして6年生に向けての思いを表そう ～
A表現(2) 立体に表す活動

題材目標

- 6年生になったときの理想の姿を考え、金属の性質や形、色から表現することを楽しむようにする。
- なりたい姿から表したいことを見つけ、金属の形を変えたり組み合わせたりしながら構成し、表したいことに合わせて工夫して表すようにする。
- 自他の作品を見て、よさや美しさ、表現の意図などについて紹介したり、聞いたりして感じ取るようにする。

題材について

本題材は、地域の工場の廃材を生かして自分のなりたい6年生像を表す題材である。あと3か月で6年生になる児童たち。自分たちがどのような6年生になりたいかを考えることで、主題につなげていく。工場については3年生の社会科見学で実際に出向き、どんな工場なのかを学習し、部品や機械を目にしている。これまで地域の工場の材を使った経験がないため、今回実際にいろいろな部品に触れ、表していく。そして、横浜市芸術文化教育プラットフォームを利用し、実際に造形作家を招いて授業を進めることで興味や関心を高める。

○本題材における〔共通事項〕についてのとらえ

〔共通事項〕

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

いろいろな工業部品を生かして自分の思いを表す活動を通して、形や動き、奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、自分のイメージをもつこと。

4. テーマに迫るために

部会テーマ

効果的につくることを楽しむ子どもの姿を目指して

○出あいの工夫

材との出あい

本児童は、3年生の社会科の学習で「有限会社かなめ（通称：かなめ工場）」の工場見学に行った経験がある。工場で作られているのも、使われている機械など、見学を通して地域に根差した工場があるということを知った。今回は実際に工場に出向き、普段目にすることができない航空機の部品を作るかなめ工場から出たいろいろな形や大きさの廃材と出会い、自分で使いたい廃材を自分のイメージに合わせて選んでいく。

アーティストとの出あい

造形作家の山田裕介さんと出会う。いろいろな廃材を生かして立体作品を表してきたプロの表現方法や考えに触れ、廃材で表す楽しさを感じられるようにする。

○場の設定の工夫

児童が自然にお互いの作品を見て対話が広がるように、図工室の机で向き合っ
て活動する。自分が選んだ材がすぐ分かるように、アルミ皿を一人一枚用意して
おく。また、選んだが使わなかった部品については、「かなめの宝箱」として誰
でも選んで持っていけるリサイクルコーナーを設ける。

○共感的支援の工夫

6年生像と表現が結びつきにくい児童には、お気に入りの材を見付けたり、どの
材が自分のイメージに近い形なのかを一緒に考えたりする。そこから、組み合わせ
を考え、段階的に支援していく。活動中は児童と教師、児童と児童、児童と作品と
の対話を大事に活動できるようにする。

○小中一貫の視点として

自分のなりたい6年生像を考えることで、6年生にとどまらず、その意識が中
学校へつながるのではないかと考える。普段あまり触れない材に触れることで、
新しい見方や感じ方に気付けるようにする。また、工業部品の質感や性質がもた
らす効果にも注目するようにし、表現に生かしていけるようにする。そして、美
しさにも着目して作品と関わっていくようにする。

5. 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	○6年生になったときの理想の姿を考え、金属の性質や形、色から表現することを楽しもうとしている。
発想や構想の能力	○なりたい姿から表したいことを見つけ、金属の形を変えたり組み合わせたりして、効果的に構成して表そうとしている。
創造的な技能	○「新吉田のかなめ」をテーマとして、表したいことに合わせて工夫して表している。
鑑賞の能力	○自他の作品を見て、よさや美しさ、表現の意図などについて紹介したり、聞いたりして感じ取っている。

6. 指導と評価の計画 6.5 時間

ア かなめって何？（0.5 時間）

イ 思いに合った工業部品を選びにいこう（2 時間）

ウ 工業部品を生かして6年生に向けての思いを表そう（3 時間）

エ 作品を友達に紹介しよう、味わおう（1 時間）

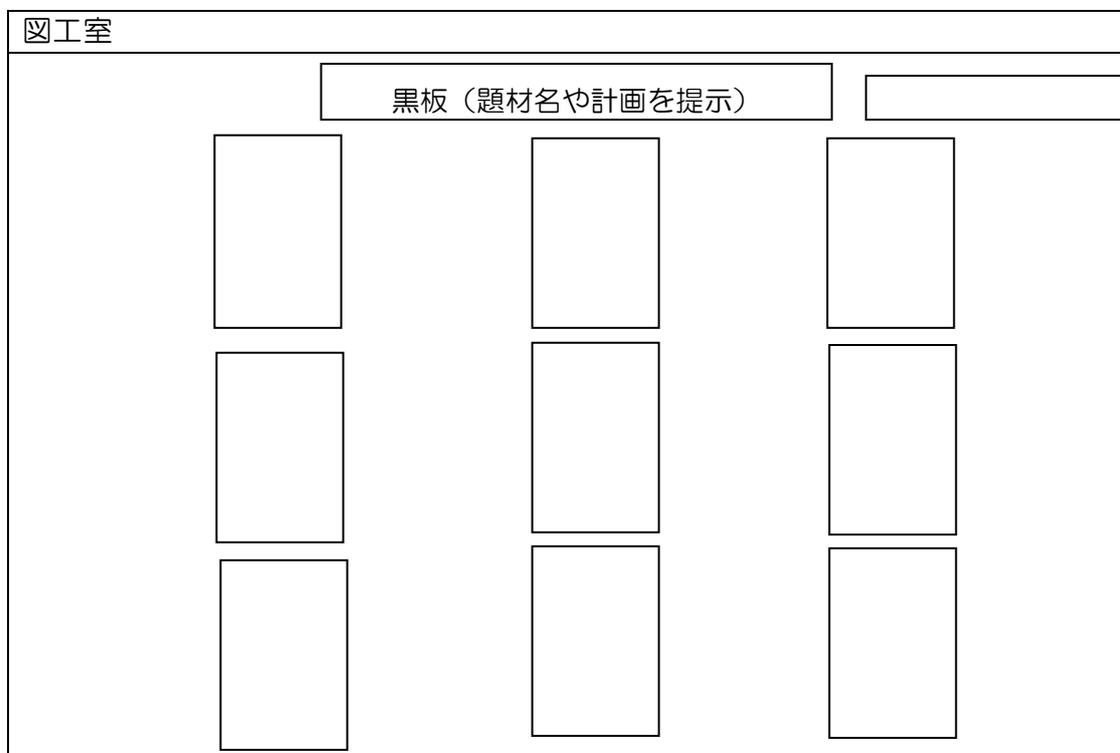
	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
0.5 時	ア かなめって何？		
	<p>○かなめ工場から、「かなめ」とはどのようなことか考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心となるもの ・大事なもの <p>○残り3か月、どんな6年生になりたいかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなを支えられるように（→どっしりとした感じ） ・優しい（→丸くてなめらかな感じ） ・協力する（つながっている感じ） 	<p>関</p> <p>どんな6年生になりたいかを自分なりに考えている。（観察、カード）</p>	<p>○カードを使って、具体的に言葉にして書き出すことで手助けとなるようにする。</p> <p>○6年生の卒業を控えて、自分たちが次に6年生へとなる意識をもつことのできるように、具体的な姿を考えるようにする。</p> <p>○なりたい姿を立体にそのまま表現するには難しいので、なりたい姿から「○○○な感じ」という風におおまかなイメージをもつことができるようにする。</p>
1 2 時	イ かなめ工場へ部品を選びにいこう		
	<p>○かなめ工場に出向き、自分のイメージに沿って部品を選ぶ。（アルミ、銅、鉄など）</p> <p>○造形作家さんから接着方法について学ぶ。</p>	<p>発</p> <p>様々な部品に触れ、表したいイメージをもっている。</p>	<p>○形や性質、大きさがそれぞれ異なるため、何をどのくらい選ぶのが目安となる量を事前に示すようにする。</p> <p>○自分の「○○○な感じ」をもとに部品を選んでいくようにする。</p>
3 4 5 時 (構)	ウ 工業部品を生かして6年生に向けての思いを表そう		
	<p>○部品を触ったり、試したりしてイメージを広げる。</p> <p>○造形作家さんとともに、効果的に表すための方法を考え、工夫しながら表す。</p>	<p>発</p> <p>触ったり試したりして組み合わせを考えながら効果的に表そうとしている。</p> <p>因</p> <p>自分の表したいことに合わせて工夫して表そうとしている。</p>	<p>○接着方法、順序に気を付けながら表すように声を掛ける。</p> <p>○造形作家さんと一緒に考えることで効果的に表すための助けとなるようにする。</p> <p>○使わなくなった部品は「かなめの宝箱」に入れる。「かなめの宝箱」はいつでも誰でも使えるようにする。</p>
6 時	エ 作品を友達に紹介しよう、味わおう		
	<p>○友達に作品を紹介し、鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな6年生になりたいかそれを踏まえてどのように表したか。 	<p>鑑</p> <p>自他の作品を見て、よさや美しさ、表現の意図などについて紹介したり、聞いたりして感じ取っている。</p>	<p>○自分の作品について紹介する。</p> <p>○友達の思いと作品を重ね合わせながら見たり聞いたりするようにする。</p>

7. 準備

児 童：筆記用具、軍手、自分が選んだ工業部品、工業部品を入れる袋、

教 師：グルーガン（人数分）、金属用接着剤、新聞紙、用具置き机、アルミ皿、土台、ドラムコード、ペンチ、電源タップ、学習カード

8. 場の設定



9. 研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」と「共通事項」を基にしたカリキュラム・マネジメント

高学年部会のテーマである「効果的につくることを楽しむ子どもの姿を目指して」と共通事項に示されている「形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること」、そして学習の方向性の「主題を効果的に表す」をキーワードとして題材設定を考えた。

高学年になると、造形的な特徴を基により抽象的なイメージをもてるようになる。今回は、金属を材として用いた。3年生の社会科見学でもお世話になった地域の工場であるかなめ工場へ行き、子ども達でも形を変えられる、薄めの小さな金属を用意していただいた。

主題をもって学習活動に取り組んでほしいと考え、導入で「新吉田のかなめ」をテーマとして投げかけた。そして、自分のイメージに合わせて材料を集めるところから始めた。

主題を効果的に表すためには、動きや奥行き、バランスなどの造形的な特徴をとらえること、自分なりのイメージをもつことができるような学習計画を立てた。金属を組み合わせるだけでなく、ペンチで金属の形を変えることで、より自分のイメージに近づけるようにした。主な接着剤は、グルーガンを使用した。グルーガンは、金属でも容易に接着することができ、接着だけでなくデザインや飾りとしても表していた。

鑑賞活動は、視聴覚室に暗幕を引いて行った。暗い部屋の中で暖色のライトを使い、壁に影を映して行った。光源の方向や距離、角度で壁に写る影の形が変わる面白さがあった。別日にあらためて、作品自体のよさや表現の意図を感じ取る鑑賞活動を設けた。

2. 子どもが主体的・対話的で深い学びを実践する授業づくり

今回、初めて横浜市芸術教育プラットフォームを利用して授業を行った。子どもたちもアーティストというプロと関わることで、様々な表現方法や考えに触れることができた。また、地域の工場であるかなめ工場に行くことで、普段触れることのない材に触れ、その材で表す楽しさや特別感を味わうことができた。そして、6年生に向けて自分の姿を考えるよい機会となった。

テーマを「新吉田のかなめ」としたことで、一人ひとりが考える「かなめ」を想像し、なりたい姿と合わせながら考えていった。表す難しさはあったが、子どもたちは作品と向き合いながら表していく姿が見られた。

かなめ工場の材を使うことで、3年生の見学では感じられなかった材の魅力を感じることもできた。色や形、性質が異なる材と出あった瞬間の子どもたちの表情は本当に宝物を見付けたときのようだった。

導入で題材名を示し、自分なりの「かなめ」イメージをもたせようとしたが、材料選びまでに表したいイメージをもっていた子どもは少なかった。しかし、材料と出あい、試していく中で、ペンチを使って曲げたりひねったりつなげたりと工夫が増え、表現方法も広がっていく様子が見られた。友達や教師との対話だけでなく、材の価値を感じながら作品との対話も行っていった。

プラットフォームを利用したことで担任だけでは補えないものを補うことができた。学習活動を組み立てる上で、アーティストの意向と担任としての意向を調整することの難しさを感じた。いつどのような場面でどちらが主となって指導するかを細かく事前に話し合っておくべきだった。しかし、アーティストは教師にはない見方や考え方、技術がある。アーティストというプロの考えに子どもたちが触れたことで、子どもたちの表すことに対する興味や関心の変容が見られた。子どもたちの資質・能力を向上する上でプラスとなる取り組みだった。

別日に設けた鑑賞活動では、表現の意図を友達に作品の細かな表現を伝えたり質問したりする姿が見られた。伝えたり質問したりすることで友達の見方や考え方を知り、自分の見方や考え方を深めることができる。